

第五回 資金面の課題に関するワーキング・グループ議事要旨

日時：平成 25 年 11 月 21 日（木）17:00～19:00

場所：中央合同庁舎 4 号館 5 階 545 会議室

議 事

資金面の課題に関するWG報告書の取りまとめについて

資金面の課題に関するWG報告書の取りまとめに向けて討議等を行った。主な内容は次のとおり。

共助社会づくりの推進においては、一人一人の市民がボランティアや寄附、会費といった様々な形を通じて共助社会づくりに参画していくことが重要である。

市民ファンドには、市民に対して地域課題を共有し、その課題を解決するNPO等を紹介するという役割も期待されている。

寄附文化の醸成に向けたシンポジウムは、金融機関、弁護士、公認会計士、税理士などの個人金融資産の管理に関わる専門家と連携していくべきである。

また、シンポジウムの内容を地方に展開していくことも期待される。

NPOバンクは金融機関同様、融資を行っているが、NPOバンクの意義は市民に支えられているということが重要である。

金融機関のNPO等への融資が促進されない理由として、金融機関のNPO等に対する理解が不足しているのと同時に、NPO等も金融機関に対して、金融機関を理解させるような決算をしていない、情報開示をしていないという点が挙げられる。

共助社会の場において、地域金融機関が参画する意義として、地域金融機関が人材、資金及び情報等を有しており、地域の課題解決及び活性化において、極めて重要な資源であることと同時に、金融機関側の公共的な役割の再認識、NPO等についての理解促進、地域との一層の関わり、融資の際の目利き能力の向上といった職員の人材育成につながる、という点も挙げられる。

NPO等向け融資のデフォルトを低くする手法としては、NPO等融資審査において、窓口で決算書等書類のみで審査を行うのではなく、必ず申込法人の現地に行って、現地の実態をよく確認し、申込法人の実態をこの目できちんと確認することである。

(以 上)